

「今年度志願予定者高校・大学生らに潜水艦公開」



艦内を覗く見学者



潜水艦と見学者

自衛隊神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 松浦一海尉）は、7月21日（土）神奈川県本HPで潜水艦見学希望者を募り、平成30年度志願予定者及び抽選で選ばれた28名に対し、米海軍横須賀基地に所在する潜水艦「せとしお」の特別公開を行った。

この日は、夏の猛暑で顔から流れ落ちる汗を拭いながら、雲一つない快晴の中、見学が行われた。見学者は米海軍横須賀基地の正面ゲートをくぐると米海軍の施設に圧倒されつつ、第2潜水隊群の施設まで向かった。まず施設に到着すると潜水艦の概要説明が始まり、約30分間の潜水艦の歴史や仕組み等の説明があった。

その後、岸壁に行くところには4艦の潜水艦が停泊しており、見学者は圧倒的な威圧感に驚きを隠さずいた。珍しい4艦の潜水艦をバックに記念撮影をして艦内に入ると、独特な雰囲気と異様な狭さに見学者は「こんなに狭いと思いませんでした。すれ違っても大変ですね」と声を漏らしていた。潜水艦のメイン区画でもある発令所では、色々な機械や見た事のない潜望鏡を覗き感激していた。

食堂に行くところには常備されている玉ねぎやジャガイモ、カボチャ、ニンニク等の食材を見て「おお、テレビで見たことあります」との発言もあり艦内は大いに盛り上がりつつあった。

乗組員からの懇切丁寧な説明により見学者は潜水艦に対して興味を示していた。

見学者からは、「こんな貴重な体験が出来るとは思わなかった。自衛官になって将来は潜水艦の乗員になりたい」との声が聞かれた。この企画は潜水艦に興味を持って頂き、入隊者を増やすために行ったものであり、横須賀地域事務所として、「今後も積極的に部隊と連携し海上自衛隊に興味を持ってもらい、海上自衛官を増やす施策を考案していきたい」としている。

「防大生が母校に帰郷広報、制服姿に募集対象者も興味津々」



丹野学生と防大志願予定者



進路担当教諭に質問を受けて真剣に答える丹野学生

自衛隊神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 松浦一海尉）は、8月7日（火）、横須賀市内にある神奈川県立追浜高等学校へ平成28年度に同校を卒業した丹野瑞希学生と一緒に訪問した。

今回は夏休みを利用して母校に帰郷広報訪問し、募集活動を実施する目的で進路担当教諭及び今年度志願予定者2名に対して自衛官募集の説明会を実施した。同校は進路学校であり、今度も防衛大学校生を輩出している学校であったが、学校説明会を実施するのは初めてである。校舎に入ると、説明会は進路担当教諭と募集対象者が出席してくれて校内を案内してくれた。一昨年に入学した丹野学生の姿を見て、進路担当教諭からは「立派な姿で学校に来てくれて感激しました」との声が聞かれた。教員の子の凛々しい制服姿に驚くことにも感激された様子であった。

進路担当教諭と募集対象者2名への説明会が始まり、自衛隊の任務や編成等の魅力を伝え、防衛大学校の制度等の説明を丹野学生がすると、段々と質問も増えてとても興味を示している様子が窺え、約1時間程度の説明会を終えた。

その後は、募集対象者を中心に疑問や不安な点を払拭するのようにつづいて懇話が続く。募集対象者からは「色々不安な点がありました。今回の説明会で不安や疑問が無くなりました。丹野先輩のような自衛官になりたい。自衛官を受験します。」と強い志を持った意見ももつことが出来た。丹野学生は「また、このような帰郷広報を実施するとともに、自分達の後輩を作っていきたい。募集の重要性をよく認識しました」と熱く語っていた。

横須賀地域事務所は「今後も各学校と積極的に交流し、自衛隊のやり甲斐や魅力を伝えていくことと、防衛省・自衛隊を将来の職業の選択肢の一つとして理解してもらえよう今後とも努力していく」としている。

「来年度の入隊予定者及び今年度の受験者に対し浜松基地見学を実施」



F-15の前で記念撮影



初めての航空機（T-4）

自衛隊神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 松浦一海尉）は、8月8日（水）航空自衛隊浜松基地の協力を得て、来年度の入隊予定者、今年度の受験者を含む20名に対し浜松基地見学を行った。

まず、第1航空団渉外広報室の隊員がマイクロバスに同乗し、基地内を移動しながら概要説明を行なった。午前中は、第1術科学校に入学中の学生居室等の居住空間を見学し、女性自衛官から居室内の説明を受けた。見学者には、女性の受験者も多く参加しており、色々な質問を積極的にしていた。特に洗濯室や大きな物干し場に驚きの声を上げていた。

次に第1術科学校の幹部学生に対するF-15戦闘機を教材にした内容の授業風景を見学した。実践的な教務内容を直接見ることが出来た。見学者や同行した父兄も真剣な眼差しで授業風景を見学していた。その後第1術科学校に所属する航空機整備教官からF-15戦闘機の概要説明を受け、その後の質疑応答では、授業内容に関して「今のような内容の授業を行っているのか」「航空機に興味を何もわからなくても整備員になれるのか」といった質問があり、航空機の事がある学生は普段近くで見ることが出来ない戦闘機に興味を示し、実際の戦闘機を使った授業内容に驚きつつも関心を持って見学を行うことが出来た。

その後、第1航空団においてT-4中等練習機の整備現場を見学した。ここでは、整備補給群に所属する現役の隊員から整備現場の説明及び航空機整備員について概要説明があり、その後全員がT-4中等練習機のコックピットに着座し説明を受けた。初めて自衛隊所属の航空機に着座した見学者は終始笑顔で隊員の説明を受け「とても感動しました」という声が聞こえ、隊員も笑顔で「航空自衛隊に入隊してください」と挨拶をしていた。

次に、「管制塔」の見学をした。ここでは航空管制官という難関を突破した優秀な隊員が常時勤務しており、管制官による説明を受けることが出来た。管制塔では陸上自衛隊に所属する航空機として、CH-47やOH-16D等の珍しいヘリコプターや航空学生が離発着させる第1航空団所属のT-4練習機を管制官が英語で離発着の誘導を行う現場を目の前で見ることが出来た。管制塔は見学中も航空自衛隊所属の航空機や陸上自衛隊の航空機、それ以外にも民間所属のヘリコプター等を警戒し、安全に航空機を連航するために忙しく管制官が勤務を行っていた。見学者からは「どうすれば管制官になれるのか」「英語能力は高くないとだめなのか」といった質問が矢継ぎ早に飛び、管制官に対する興味も湧いた見学となった。

帰りのバス車内では、見学に満足した様子の学生から「将来自衛官になるという気持ちが一層増した見学になりました。自衛官になれるよう勉強を頑張ります」と意気込みを述べていた。

横須賀地域事務所は、「今後も継続してHPを利用したイベント案内を実施し、今後も積極的に部隊と一体となって志願者獲得を目指し、自衛隊に興味を持ってもらえるような募集活動をしていく」としている。